

## 生態系をゆがめるブラックバス

国際化の進展にともない、もともとは日本に生息しない外来種が国内に持ち込まれ、住み着くケースが増加しています。特に、最近各地で問題になっているのが、ブラックバス・ブルーギルによる漁業や自然環境への被害です。



ブルーギル

(写真提供)滋賀県立琵琶湖博物館

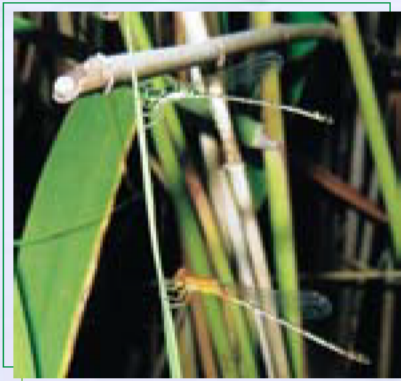


ブラックバス(オオクチバス)

(写真提供)滋賀県立琵琶湖博物館

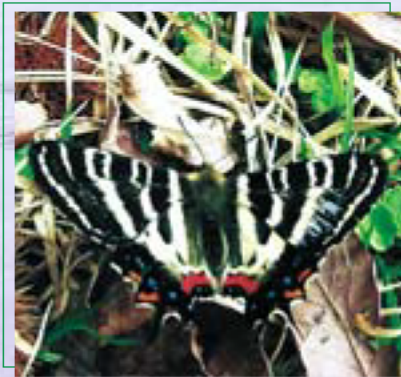
一般にブラックバスと呼ばれているのはオオクチバスとコクチバスの2種で、北米原産の肉食魚です。疑似餌(ルアー)釣りで、よく釣れて引きが強いいため非常に人気の高い魚です。ブラックバスは他の魚を食べるため、メダカやモツゴ、フナといった在来種が食い荒らされ、多様な生物を育てていた池や川の生態系が壊されてしまいます。生物の多様性を確保するためには、このような外来種の拡散を防止することが重要です。

## 三重県で絶滅のおそれのある野生生物(昆虫編)



### ヒメイトトンボ

- ・トンボ目イトトンボ科
- ・環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類
- ・小型のイトトンボで体長は3cmぐらいです。海水と淡水が混ざった汽水の場所で、ヨシなどの植物がよく茂っているところに生息しています。オスは黄緑色と黒色で、背中に黄緑色の斑点が4つあります。メスは明るいオレンジ色で、頭に五角形の黒い斑点があります。汽水域は開発されやすく、生息場所が減っています。



### ギフチョウ

- ・チョウ目アゲハチョウ科
- ・環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類
- ・春の女神といわれ、4月に出現する美しいアゲハチョウです。カタクリや桜などの花を訪れ、カンアオイに産卵します。本州固有の遺存種で、中央構造線より南には生息しません。開発による里山の消失、里山の管理放棄による低木や下草の繁茂などにより、多くの生息地が失われています。